

## 第V部 主要な労働安全衛生対策

ここでは、職業安全衛生法に基づく監督のほか、労働安全衛生局が具体的にどのような安全衛生対策を実行しているか、また、従来関心が高かった労働安全衛生マネジメントの状況について紹介するために、4つの例（①The Hazard Communication Standard (HCS)（危険有害因子周知基準、②若年労働者のための（労働災害防止）キャンペーンの展開、③労働安全衛生マネジメントシステム、④ 若年労働者）に対する取組みを紹介します。

### 1 The Hazard Communication Standard (HCS)（危険有害因子周知基準）の改正について

○資料作成者注：この改正については、次のタイトルペーパーにあるとおり、この基準の全文について「英語原文ー日本語仮訳」の形式で、2024年8月6日に中央労働災害防止脅威会技術支援部国際課の関連するウェブサイト：[https://www.jisha.or.jp/Portals/0/resources/international/topics/pdf/202407\\_02.pdf](https://www.jisha.or.jp/Portals/0/resources/international/topics/pdf/202407_02.pdf)

で紹介しておりますので、ご参照ください。

（タイトルペーパー）

本稿は、アメリカ合衆国労働省職業安全衛生局（Occupational Safety and Health Administration, Ministry of Labor, United States（以下単に「OSHA」といいます。）が、2024年5月20日に連邦官報に公示した「1910.1200 - Hazard Communication.」（危険有害性周知基準）について、「原典の英語原文ーその日本語仮訳」の形式で紹介するものです。この場合、原典の英語原文では今回新たに制定したこの「1910.1200 - Hazard Communication.」（危険有害性周知基準）を改正した箇所及び追加して規定した箇所については、赤字で示されておりますので、本稿でもこれらの赤字部分の表記はそのまま踏襲してあります。

なお、この基準の施行日は、2024年7月19日でした。

[資料出所] : [Hazard Communication - Overview | Occupational Safety and Health Administration \(osha.gov\)](https://www.osha.gov/hazcom)

<https://www.osha.gov/hazcom>

(最終閲覧日 : 2026 年 2 月 16 日に。以下の英語原文に変更がないことを確認しました。)

<p><b>The standard that gave workers the right to know, now gives them the right to understand.</b></p> <p>The Hazard Communication Standard (HCS) is now aligned with the Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals (GHS). This update to the Hazard Communication Standard (HCS) will provide a common and coherent approach to classifying chemicals and communicating hazard information on labels and safety data sheets. This update will also help reduce trade barriers and result in productivity improvements for American businesses that regularly handle, store, and use hazardous chemicals while providing cost savings for American businesses that periodically update safety data sheets and labels for chemicals covered under the hazard communication standard.</p>	<p>労働者に「知る権利」を与えた基準が、今度は「理解する権利」を与える。</p> <p>危険有害性周知基準 (HCS) は、化学物質の分類及び表示に関する世界調和システム (GHS) と整合するようになりました。この危険有害性周知基準 (HCS) の更新により、化学物質を分類し、ラベル及び安全データシートで危険有害性情報を伝えるための共通かつ首尾一貫したアプローチが提供されます。</p> <p>また、この更新は、危険な化学物質を定期的に取り扱い、保管し、及び使用する米国企業の貿易障壁を減らし、生産性の向上をもたらすとともに、危険有害性周知基準の対象となる化学物質の安全データシート及びラベルを定期的に更新する米国企業にとってはコスト削減となるでしょう。</p>
---	--

<b>Hazard Communication Standard</b>	<b>危険有害性周知基準</b>
--------------------------------------	------------------

**In order to ensure chemical safety in the workplace, information about the identities and hazards of the chemicals must be available and understandable to workers. OSHA's Hazard Communication Standard (HCS) requires the development and dissemination of such information:**

- Chemical manufacturers and importers are required to evaluate the hazards of the chemicals they produce or import, and prepare labels and safety data sheets to convey the hazard information to their downstream customers;
- All employers with hazardous chemicals in their workplaces must have labels and safety data sheets for their exposed workers, and train them to handle the chemicals appropriately.

#### Major changes to the Hazard Communication Standard

- **Hazard classification:** Provides specific criteria for classification of health and physical hazards, as well as classification of mixtures.
- **Labels:** Chemical manufacturers and importers will be required to provide a label that includes a harmonized signal word, pictogram, and hazard statement for each

職場における化学物質の安全性を確保するためには、化学物質の性質及び危険性に関する情報を労働者が入手し、理解できるようにする必要があります。OSHAの危険有害性周知基準（HCS）は、このような情報の整備と普及を要求しています。

- 化学物質製造業者及び輸入業者は、製造又は輸入する化学物質の危険性を評価し、川下の顧客に危険性情報を周知するためのラベル及び安全データシートを作成することが義務付けられています；
- 職場に危険な化学物質があるすべての使用者は、ばく露される労働者のためにラベル及び安全データシートを用意し、化学物質を適切に取り扱うよう訓練する必要があります。

#### 危険有害性情報周知基準の主な変更点

- **危険有害性の分類：** 健康及び物理的な危険性の分類並びに混合物の分類のための具体的な基準を提供する。
- **ラベル：** 化学物質の製造者及び輸入者は、危険有害性の程度及び分類ごとに、調和されたシグナルワード、ピクトグラム及びハザードステートメントを含むラベルを提供することが要求されることになる。また、注意喚

<p>hazard class and category. Precautionary statements must also be provided.</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▪ <b>Safety Data Sheets:</b> Will now have a specified 16-section format.</li><li>▪ <b>Information and training:</b> Employers are required to train workers on the new labels elements and safety data sheets format to facilitate recognition and understanding.</li></ul>	<p>起文も記載する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>安全データシート：</b> 16セクションのフォーマットが指定されるようになる。</li><li>• <b>情報及び訓練：</b> 使用者は、新しいラベルの要素及び安全データシートのフォーマットについて、認識及び理解を促進するために労働者を訓練することが要求されます。</li></ul>
--	--

## 2 労働安全衛生マネジメントシステムについて（最終閲覧日：2026年2月16日）

労働安全衛生マネジメントシステムの策定に至る経緯を振り返ると、国際標準化機構（International Organization for Standardization、略称 ISO）は、1987年に品質管理規格としての ISO9000 シリーズ、1996年に環境管理規格としての ISO14000 シリーズを、それぞれ、制定しました。これらは、いずれも関連するイギリス規格（British Standards）が基になったものです。また、1996年5月に、労働保健安全に関するイギリス規格として、BS8800：Guide to occupational health and safety management systems が発行されました。これらの分野で国際標準化あるいはイギリス規格の制定が行われたことは、その後における労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の国際標準化のきっかけとなったものです。ISO は、前述したように、1987年に ISO9000 シリーズ（品質管理規格）を制定（1994年、2000年に改正）し、また、1996年に ISO14000 シリーズ（環境管理規格）を制定しました。

その後、ISO は、自ら OSHMS の作成に取り組むべく、そのための技術委員会設置の可否に関し、ISO 加盟国に諮ったのですが、投票の結果、主として、既に ILO（国際労働機関）が OSHMS ガイドラインの策定に取り組んでいたことから、国際的なダブルスタンダード化を避けることが理由となって、否決され、ISO は、当面、OSHMS の国際規格化を断念することになりました。

結果的には、以前から OSHMS の作成に取り組んでいた ILO が、2001年6月に理事会決定により、OSHMS に関するガイドライン（“Guidelines on occupational safety and health management systems ILO－OSH2001”）を制定しました。

その後、2013年に、ISO では、労働安全衛生マネジメントシステム（以下「OSHMS」という。）の ISO 規格化が加盟国により承認され、以後その開発作業（ISO45001（OHSMS））が行われ、その後かなり長い経過がありました。ISO は、2018年3月に ISO45001（労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格）を制定し、公表しました。

一方、アメリカ規格協会（American National Standardization Institute；以下単に「ANSI」という。）は、このような国際的な動きに留意しながらも、1999年に、OHSS（Occupational Health and Safety Systems）のアメリカ合衆国国内規格を策定するための正式委員会 ZD-10 を、全米産業衛生協会（American Industrial Hygiene Association：略称 AIHA）を事務局として発足させました。この Z-10 委員会は、2001年2月7日及び8日に、第1回会合を開催し、構成メンバーとしては、労働安全衛生局（OSHA：Occupational Safety and Health Administration）、労働界（AFL-CIO：The American Federation of Labor and Congress of Industrial Organizations）、使用者（アメリカ製造業協会：NAM；National Association of Manufacturers）、全米安全評議会（NSC：National Safety Council）等の専門団体も加わって、以後熱心に検討が進められて、最終案を2005年5月に取りまとめ、これを基に2005年7月25日に“American National Standard－Occupational Health and Safety Management Systems”を承認しました。その後、ANSI、AIHA 及び The American Society of Safety

Engineers [ASSE] (アメリカ安全工学協会) は、ANSI の標準的な要求に基づく 5 年毎の見直しを行って、2012 年にこの 2005 年の規格を “ANSI/AIHA Z10-2012、Occupational Health and Safety Management Systems” として公表しました。その後この規格の事務局は、ASSE に移管され、また、ASSE はその名称が ASSP (The American Society of Safety Engineers [ASSE]) に変更されたので、この規格は、その後「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」と、また、現在では「ANSI/ASSP Z10.0-2019 - Occupational Health and Safety Management Systems」と呼称されており、以後変更されることなく今日に至っています (関連するウェブサイ ト : [https://webstore.ansi.org/standards/asse/ansiasspz102019?srsltid=AfmBOopNwcqzVIIC\\_pKjDOuny4s3FpZvjEAJyvqIFAmTh6EPyoYI6imV](https://webstore.ansi.org/standards/asse/ansiasspz102019?srsltid=AfmBOopNwcqzVIIC_pKjDOuny4s3FpZvjEAJyvqIFAmTh6EPyoYI6imV) )。資料作成者注 : このウェブサイトは、セキュリティ機能が強化されたために現在 (2026 年 2 月 16 日現在) では閲覧できません。)

この「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」の目次の「英語原文—日本語仮訳」を次に掲げました。

なお、ISO は、2018 年 3 月に ISO45001 を公表しましたが、この公表に際しては、ANSI はその旨をそのホームページのウェブサイトで報じたものの、この ISO45001 をアメリカ合衆国国内規格として取り込むための作業に着手するような意思は示されておらず、上述した「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」は、(ANSI/ASSP Z10.0-2019 - Occupational Health and Safety Management Systems : <https://webstore.ansi.org/Standards/ASSE/ANSIASSPZ102019> ) (資料作成者注 : このウェブサイトは、セキュリティ機能が強化されたために現在 (2026 年 2 月 16 日現在) では閲覧できません。) として現在でも有効のようです (最終閲覧日 : 2026 年 2 月 16 日)。この ANSI/ASSP Z10.0-2019 - Occupational Health and Safety Management Systems は、有料で購入しないとその内容を見ることができません (現在 (2026 年 2 月 16 日) でも同じです。)。そこで、2012 年当時公表されていた「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」の目次のみを参考資料として次のとおり掲載することにしました。

#### 「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」の目次の「英語原文—日本語仮訳」

(資料出所 : “ANSI / AIHA / ASSE, Z10-2012, An Overview of the Occupational Health & Safety Management Systems Standard ” By Fred A. Manuele (この論文は、現在でも The American Society of Safety Professionals のウェブサイト : [https://aeasseincludes.assp.org/professionalsafety/pastissues/059/04/F3\\_Manuele\\_0414.pdf](https://aeasseincludes.assp.org/professionalsafety/pastissues/059/04/F3_Manuele_0414.pdf) からダウンロードできます (最終閲覧日 : 2026 年 2 月 16 日)。この論文・記事には著作権の保護に関する特別の表示がないので、その資料出所を明らかにしつつ、目次のみを抜粋して日本語仮訳を作成しました。)

(資料作成者注：この目次については、変更がないことを2026年2月16日に確認しました。)

<p><b>Z10-2012 Table of Contents</b></p> <p>The Z10-2012 table of contents provides a base for review and comparison with the safety management systems with which safety practitioners are familiar.</p> <p>Table of Contents</p> <p>Foreword</p> <p>1.0 Scope, Purpose &amp; Application</p> <p>1.1 Scope</p> <p>1.2 Purpose</p> <p>1.3 Application</p> <p>2.0 Definitions</p> <p>3.0 Management Leadership &amp; Employee Participation</p> <p>3.1 Management Leadership</p> <p>3.1.1 Occupational Health and Safety Management System</p>	<p><b>Z10-2012 目次</b></p> <p>Z10-2012 の目次は、安全管理の専門家が慣れ親しんだ安全管理システムとの見直し及び比較のための基盤を提供する。</p> <p>Z10-2012 目次</p> <p>序文</p> <p>1.0 適用範囲、目的及び適用</p> <p>1.1 適用範囲</p> <p>1.2 目的</p> <p>1.3 適用</p> <p>2.0 定義</p> <p>3.0 経営陣のリーダーシップ及び被雇用者の参加</p> <p>3.1 経営陣のリーダーシップ</p> <p>3.1.1 労働安全衛生管理システム</p> <p>3.1.2 政策</p>
---	--

3.1.2 Policy	3.1.3 責任及び権限
3.1.3 Responsibility and Authority	3.2 被雇用者の参加
3.2 Employee Participation	4.0 計画
4.0 Planning	4.1 初期及び進行中の再評価
4.1 Initial and Ongoing Reviews	4.2 評価及び優先順位付け
4.2 Assessment and Prioritization	4.3 目的
4.3 Objectives	4.4 実計画及び資源の割り当て
4.4 Implementation Plans and Allocation of Resources	5.0 実施及び運用
5.0 Implementation & Operation	5.1 OHSMS の運用要素
5.1 OHSMS Operational Elements	5.1.1 リスク評価
5.1.1 Risk Assessment	5.1.2 管理の階層
5.1.2 Hierarchy of Controls	5.1.3 設計の再評価及び変更の管理
5.1.3 Design Review and Management of Change	5.1.4 調達
5.1.4 Procurement	5.1.5 請負業者
5.1.5 Contractors	5.1.6 緊急時の準備
5.1.6 Emergency Preparedness	5.2 教育、訓練、認識及び能力

5.2 Education, Training, Awareness and Competence	5.3 意思疎通
5.3 Communication	5.4 文書及び記録管理プロセス
5.4 Document and Record Control Process	6.0 評価及び是正措置
6.0 Evaluation & Corrective Action	6.1 監視、測定及び評価
6.1 Monitoring, Measurement and Assessment	6.2 事象の調査
6.2 Incident Investigation	6.3 監査
6.3 Audits	6.4 是正措置及び予防措置
6.4 Corrective and Preventive Actions	6.5 計画プロセスへのフィードバック
6.5 Feedback to the Planning Process	7.0 管理の見直し
7.0 Management Review	7.1 管理の見直しのプロセス
7.1 Management Review Process	7.2 管理の見直し、その結果及びフォローアップ
7.2 Management Review Outcomes and Follow Up	
Appendixes	付録
A) Policy Statements (Section 3.1.2)	A) 政策の声明 (セクション 3.1.2)
B) Roles and Responsibilities (Section 3.1.3)	B) 役割及び責任 (セクション 3.1.3)
	C) 被雇用者の参加の奨励 (セクション 3.2)

<p>C) Encouraging Employee Participation (Section 3.2)</p> <p>D) Planning-Identification, Assessment and Prioritization (Section 4.0)</p> <p>E) Objectives/Implementation Plans (Section 4.3 and 4.4)</p> <p>F) Risk Assessment (Section 4.1 and 5.1.1)</p> <p>G) Hierarchy of Control (Section 5.1.2)</p> <p>H) Management of Change (Section 5.1.3)</p> <p>I) Procurement (Section 5.1.4)</p> <p>J) Contractor Safety and Health (Section 5.1.5)</p> <p>K) Incident Investigation Guidelines (Section 6.2)</p> <p>L) Audit (Section 6.3)</p> <p>M) Management Review Process (Section 7.1 and 7.2)</p> <p>N) Management System Standard Comparison (Introduction)</p> <p>O) Bibliography and References</p> <p>New appendixes in the 2012 version are:</p> <p>F) Risk Assessment;</p>	<p>D) 計画-識別、評価、優先順位付け (セクション 4.0)</p> <p>E) 目的/実施計画 (セクション 4.3 及び 4.4)</p> <p>F) リスク評価 (セクション 4.1 及び 5.1.1)</p> <p>G) 管理の階層 (セクション 5.1.2)</p> <p>H) 変更の管理 (セクション 5.1.3)</p> <p>I) 調達 (セクション 5.1.4)</p> <p>J) 請負業者の安全及び健康 (セクション 5.1.5)</p> <p>K) 事象調査のガイドライン (セクション 6.2)</p> <p>L) 監査 (セクション 6.3)</p> <p>M) 管理の見直しプロセス (セクション 7.1 及び 7.2)</p> <p>N) 管理システム標準の比較 (はじめに)</p> <p>O) 参考資料</p> <p>2012 バージョンの新しい付録は次のとおりです。</p> <p>F) リスク評価。</p> <p>I) 調達;</p>
---	---

<p>I) Procurement;</p> <p>J) Contractor Safety and Health;</p> <p>M) Management of Change;</p> <p>N) Management System Standard Comparison.</p> <p>While the appendixes are not part of the standard, they can be helpful to those with implementation responsibility.</p>	<p>J) 請負業者の安全及び健康。</p> <p>M) 管理変更の;</p> <p>N) 管理システム標準の比較</p> <p>これらの付録は標準の一部ではなく、これらは、実施責任者のにとって助けとなるものです。</p>
--	---

3 職業安全衛生局の墜落防止キャンペーンについて : <https://www.osha.gov/stop-falls>

<p>Welcome to OSHA's Fall Prevention Campaign</p>	<p>職業安全衛生局の墜落防止キャンペーンへようこそ</p> <p>(資料作成者注: この内容には変更がないことを 2026 年 2 月 16 日に確認しました。)</p>
 <p>Photo by Koralie Hill</p>	
<p><b>FALLS ARE THE LEADING CAUSE OF DEATH IN CONSTRUCTION.</b> In 2020, there were 351 fatal falls to a lower level out of 1,008 construction fatalities (BLS data). <b>These deaths are preventable.</b></p> <p>Since 2012, OSHA has partnered with the National Institute for Occupational Safety and Health and National Occupational Research Agenda (NORA) - Construction Sector on the Fall Prevention Campaign to raise awareness among workers and employers about common fall hazards in construction, and</p>	<p>墜落は、建設業における死因の第一位です。2020年に、建設業の死亡事故1,008件のうち、より低い高さへの墜落死亡事故は351件でした(BLSデータ)。これらの死亡は予防可能です。</p> <p>2012年以來、OSHAは国立労働安全衛生研究所及びNational Occupational Research Agenda (NORA) (国家職業研究課題) - Construction Sector (建設部門)と協力して、建設業における一般的な落下の危険性並びに梯子、足場及び屋根からの落下をいかに防ぐかについて労働者及び使用者の意識を高めるため</p>

<p>how falls from ladders, scaffolds and roofs can be prevented.</p> <p><b>PLAN ahead to get the job done safely</b></p> <p>When working from heights, employers must plan projects to ensure that the job is done safely. Begin by deciding how the job will be done, what tasks will be involved, and what safety equipment may be needed to complete each task.</p> <p>When estimating the cost of a job, employers should include safety equipment, and plan to have all the necessary equipment and tools available at the construction site. For example, in a roofing job, think about all of the different fall hazards, such as holes or skylights and leading edges, then plan and select fall protection suitable to that work, such as personal fall arrest systems (PFAS).</p> <p><b>PROVIDE the right equipment</b></p> <p>Workers who are six feet or more above lower levels are at risk for serious injury or death if they should fall. To protect these workers, employers must provide fall protection and the right equipment for the job, including the right kinds of ladders, scaffolds, and safety gear.</p> <p>Use the right ladder or scaffold to get the job done safely. For roof work, if workers use personal fall arrest systems (PFAS), provide a harness for each</p>	<p>に、落下防止キャンペーンを展開しています。</p> <p><b>安全に仕事をこなすために、事前に計画を立てる</b></p> <p>高所作業を行う場合には、使用者は作業を安全に行うためにプロジェクトを計画する必要があります。まず、仕事の進め方、作業内容及び各作業に必要な安全器具を決めることから始めます。</p> <p>仕事のコストを見積もる際に、使用者は安全装置を含めるべきであり、必要な設備及び道具をすべて建設現場で利用できるような計画します。例えば、屋根の工事では、穴又は天窗、建物突端のような、さまざまな落下の危険について考え、個人用落下防止装置 (PFAS) のような、その作業に適した落下防止装置を計画し、及び選択します。</p> <p><b>適切な機器を提供する。</b></p> <p>下層から 6 フィート以上の高さにいる労働者は、万一落下した場合、重傷を負ったり死亡したりする危険性があります。これらの労働者を保護するために、使用者は、墜落防止装置並びに適切な種類のはしご、足場及び安全装置を含む仕事に適した機器を提供しなければなりません。</p> <p>作業を安全に行うために、適切な梯子や足場を使用すること。</p> <p>屋根の作業では、作業員が個人用落下防止装置 (PFAS) を使用する場合、アンカーに接続する必要がある作業員それぞれにハーネスを用意します。PFAS のサイ</p>
---	---

<p>worker who needs to tie off to the anchor. Make sure the PFAS fits, and regularly inspect it for safe use.</p> <p><b>TRAIN everyone to use the equipment safely</b></p> <p>Every worker should be trained on proper set-up and safe use of equipment they use on the job. Employers must <u>train workers</u> in recognizing hazards on the job. <u>See educational materials and resources page for posters, factsheets, and other training materials.</u></p>	<p>ズが合っていることを確認し、安全に使用できるよう定期的に点検してください。</p> <p><b>機器を安全に使用するために、全員を訓練する。</b></p> <p>すべての労働者は、仕事で使用する機器の適切なセットアップ及び安全な使用方法について訓練を受ける必要があります。使用者は、労働者が仕事上の危険を認識するための訓練を受けさせなければなりません。ポスター、ファクトシート、その他のトレーニング資料については、教材及び情報源のページをご覧ください。</p>
--	--

#### 4 若年労働者の労働安全衛生対策

原典の標題	原典の所在
<b>Young Workers - You have rights!</b> (若年労働者 - あなたには権利があります！)	<a href="https://www.osha.gov/young-workers">https://www.osha.gov/young-workers</a>

事項	原典の英語原文	左欄の日本語仮訳
<b>標題</b>	<b>Young Workers - You have rights!</b>  You have rights on the job, and your employer has the responsibility to provide a safe workplace. OSHA wants you to have a safe and rewarding work experience. This site can help you prevent job-related injuries and illnesses.	<b>若年労働者 - あなたには権利があります！</b>  職場では権利が保障されており、使用者には安全な職場を提供する責任があります。OSHA は、皆さんが安全でやりがいのある職場体験を得られることを望んでいます。このサイトは、仕事に関連するけがや病気を防ぐお手伝いをします。
<b>Young Workers</b> (若年労働者)	<b>Safe Work for Young Workers</b>  Safe work is rewarding work. Your employer has the responsibility to provide a safe workplace. Employers must follow all OSHA safety and health standards to prevent you from being	<b>若年労働者の安全な労働</b>  安全な労働はやりがいのある労働です。使用者は安全な職場を提供する責任があります。使用者は、労働中の負傷や疾病を防ぐため、OSHA

	<p>injured or becoming ill on the job. If you are under age 18, there may be limits on the hours you work, the jobs you do and the equipment you use. Learn about the <a href="#">federal</a> and <a href="#">state</a> wage and hour child labor laws that apply to you.</p>	<p>の安全衛生基準をすべて遵守しなければなりません。18歳未満の場合は、労働時間、従事できる業務、使用できる機器に制限がある場合があります。適用される連邦及び州の賃金・労働時間に関する児童労働法について学びましょう。</p>
	<p><b>You Have Rights at Work</b></p> <p>You have the right to:</p> <p>Work in a safe place.</p> <p>Receive safety and health training in a language that you understand.</p> <p>Ask questions if you don't understand instructions or if something seems unsafe.</p> <p>Use and be trained on required safety gear, such as hard hats, goggles and ear plugs.</p> <p>Exercise your workplace safety rights without retaliation or discrimination.</p> <p><a href="#">File a confidential complaint</a> with OSHA if you believe there is a serious hazard or that your employer is not following OSHA standards.</p>	<p><b>職場におけるあなたの権利</b></p> <p>あなたは以下の権利を有します：</p> <p>安全な場所で働く権利</p> <p>理解できる言語で安全衛生訓練を受ける権利</p> <p>指示が理解できない場合や安全でないと思われる場合は質問する権利</p> <p>ヘルメット、保護メガネ、耳栓等の必要な安全装備を使用し、その使用方法について訓練を受ける権利</p> <p>職場の安全に関する権利を行使しても、報復や差別を受けない権利</p> <p>重大な危険がある、又は使用者が OSHA 基準に従っていないと思われ</p>

		<p>る場合は、OSHA に秘密厳守の苦情を申し立てる権利</p>
	<p><b>Your Employer Has Responsibilities</b></p> <p>Your employer must:</p> <p>Provide a workplace free from serious recognized hazards and follow all OSHA safety and health standards.</p> <p>Provide training about workplace hazards and required safety gear.*</p> <p>Tell you where to get answers to your safety or health questions.</p> <p>Tell you what to do if you get hurt on the job.</p> <p>*Employers must pay for most types of safety gear.</p>	<p><b>使用者の責任</b></p> <p>使用者は次のことを行わなければなりません：</p> <p>重大な危険が認められない職場を提供し、OSHA の安全衛生基準をすべて遵守すること。</p> <p>職場の危険及び必要な安全装備についての訓練を提供すること。*</p> <p>安全や健康に関する質問の回答先を伝えること。</p> <p>業務中に負傷した場合の対応方法を伝えること。</p> <p>*使用者雇はほとんどの種類の安全装備の費用を負担しなければなりません。</p>
	<p><b>Ways to Stay Safe on the Job</b></p> <p>To help protect yourself, you can:</p> <p>Report unsafe conditions to a shift/team leader or supervisor.</p> <p>Wear any safety gear required to do your job.</p>	<p><b>職場での安全確保の方法</b></p> <p>自身を守るために、以下のことを実践してください：</p> <p>安全でない状況をシフトリーダー／チームリーダー又は上司に報告する。</p>

	<p>Follow the safety rules.</p> <p>Ask questions.</p> <p>Ask for help if needed.</p>	<p>業務に必要な安全装備を必ず着用する。</p> <p>安全規則を遵守する。</p> <p>疑問点があれば質問する。</p> <p>必要に応じて支援を求める。</p>
<p><b>Employer</b> (使用者)</p>	<p><b>Employer Responsibilities for Keeping Young Workers Safe</b></p> <p>Do you employ young workers? Young workers are those new to the workforce, even up to age 24. Young workers can be an asset to your workforce. However, it may be their first job or the first time they are operating equipment.</p> <p><b>Child labor laws</b> restrict the types of jobs, hours worked and equipment used by youth under age 18. Learn about the <a href="#">federal</a> and <a href="#">state</a> child labor laws that apply to young workers.</p> <p><a href="#">Protecting temporary workers</a>: Many young workers are also temporary workers. Host employers must treat temporary workers as they treat existing workers, especially including adequate training to young temporary workers. Temporary staffing agencies and host employers share control over the employee, and are therefore jointly responsible for the temp employee's safety and health.</p>	<p><b>若年労働者の安全確保に関する使用者の責任</b></p> <p>若年労働者を雇用していますか？若年労働者とは、労働市場に新しく参入した者、最大 24 歳までの者を指します。若年労働者は労働力にとって貴重な存在となり得ます。しかし、彼らにとって初めての仕事であったり、初めて機械を操作するケースもあるでしょう。</p> <p><a href="#">児童労働法</a>は、18 歳未満の若年者が従事できる職種、労働時間及び使用できる機械を制限しています。若年労働者に適用される連邦及び州の児童労働法について学びましょう。</p> <p><a href="#">派遣労働者の保護</a>：多くの若年労働者も派遣労働者です。派遣先企業は派遣労働者を自社の従業員と同様に扱わなければならない、特に若年派遣労働者に対する適切な訓練を含める必要があります。派遣会社と派遣先企業とは被雇用者に対する管理責任を共有するため、派遣労働者の安全及び健康について共同責任を負います。</p>

	<p><b>You can prevent or reduce workplace injuries</b> and make work safer for all workers, including youth. Under the Occupational Safety and Health Act of 1970 (OSH Act), employers have the responsibility to provide a safe and healthful work environment and comply with occupational safety and health standards. First-line supervisors have the greatest opportunity to protect young workers and influence their work habits. <i>Stress safety!</i></p>	<p>職場での負傷を防止し、又は軽減し、青少年を含むすべての労働者にとってより安全な職場環境を実現できます。1970年制定の職業安全衛生法（OSH法）に基づき、使用者は安全で健康的な職場環境を提供し、労働安全衛生基準を遵守する責任を負います。現場監督者は、若年労働者を保護し、その作業習慣に影響を与える最大の機会を有しています。安全を最優先に！</p>
<p><b>Parents and Educators</b> (保護者及び教育者)</p>	<p><b>Parents and Educators Can Keep Young Workers Safe</b></p> <p>As parents and educators, you play an important role. Here is vital information you need to know.</p> <p>Employers must provide a safe and healthful workplace and comply with OSHA standards to prevent injuries and illnesses. Employers must train new workers on job hazards and safe work practices in a language they understand. Employers must also pay for most types of required safety gear.</p> <p>Child labor laws restrict the types of jobs and the hours that youth under age 18 can work. They also prohibit workers under age 18 from using certain equipment. Learn about the <a href="#">federal</a> and <a href="#">state</a> child labor laws that apply to young workers.</p>	<p>保護者や教育者は若年労働者を安全に守れます。</p> <p>保護者や教育者の皆様には重要な役割があります。知っておくべき重要な情報を以下に示します。</p> <p>使用者は、負傷や疾病を防止するため、安全で健康的な職場を提供し、OSHA基準を遵守しなければなりません。使用者は、新規労働者に対し、理解できる言語で業務上の危険及び安全な作業方法を訓練しなければなりません。使用者はまた、必要な安全装備の大半の費用を負担しなければなりません。</p> <p>児童労働法は、18歳未満の青少年が就ける職種や労働時間を制限しています。また、18歳未満の労働者が特定の機器を使用することを禁止しています。若年労働者に適用される連邦及び州の児童労働法について学びましょう。</p>

	<p>States may develop and operate their own job safety and health programs with federal OSHA's approval and monitoring. There are currently 22 states and jurisdictions operating complete state plans (covering both the private sector and state and local government employees) and five plans that cover public employees only. To learn if your state has its own job safety and health program, see <a href="#">State Occupational Safety and Health Plans</a>.</p>	<p>州は、連邦 OSHA の承認と監視のもと、独自の労働安全衛生プログラムを開発し、及び運営することができます。現在、完全な州計画（民間部門と州・地方政府職員との両方を対象）を実施している州及び管轄区域は 22 あり、公務員のみを対象とする計画は 5 つあります。お住まいの州が独自の労働安全衛生プログラムを有しているかどうかを確認するには、「州職業安全衛生計画」を参照してください。</p>
<p><b>Parents and Educators</b>  (保護者及び教育関係者)</p>	<p><b>Parents</b></p> <p>Take an active role in the employment decisions of your children:</p> <p>Be aware. Know where your children are working and what they are doing.</p> <p>Ask questions. Frequently ask about what they did at work and the training and supervision provided by the employer. Discuss any problems or concerns.</p> <p>Report hazards. Help your young worker report hazards to managers or, if necessary, to OSHA if a work environment seems unsafe.</p> <p>Watch for signs of concern. Is a job taking too much of a physical or mental toll on your young worker? How is your child's performance at school? A loss of interest in or energy for school could mean the</p>	<p><b>保護者の方へ</b></p> <p>お子様の就労に関する決定に積極的に関与しましょう：</p> <p>状況を把握する。お子様がどこで、どのような仕事をしているのかを知りましょう。</p> <p>質問する。仕事の内容や使用者による訓練及び監督について頻繁に尋ね、問題や懸念事項があれば話し合しましょう。</p> <p>危険を報告する。職場環境が安全でないと思われる場合、若年労働者が管理者へ、必要なら職業安全衛生局（OSHA）へ危険を報告できるよう支援しましょう。</p> <p>懸念の兆候に注意しましょう。仕事がお子様の身体的及び精神的に過度の負担をかけていませんか？学校での成績はどうか？学校への興</p>

job is too demanding. Other signs of concern could include increased stress levels, anxiety, fatigue and depression.



### **Educators**

As an educator, you can help protect young workers in several ways:

Understand your role. You have an important opportunity to teach students safety and health skills to help them succeed and be safe at work. Help young workers build safety consciousness from their first job forward.

Teach young workers their rights and provide safety information. Incorporate information about workers' rights and occupational safety and health hazards into the high school and

味や意欲の低下は、仕事への負担が大きすぎることを示している可能性があります。その他の懸念の兆候としては、ストレスの増加、不安、疲労、抑うつ等が挙げられます。

### **教育関係者**

教育者として、若年労働者を保護するために以下の方法で貢献できます：

自身の役割を理解する。生徒に安全衛生スキルを教え、職場での成功と安全を確保する重要な機会があります。若年労働者が最初の職場から安全意識を育むよう支援してください。

若年労働者に権利を教え、安全情報を提供しましょう。労働者の権利や職業上の安全衛生上の危険に関する情報を、高校及び中学校のカリ

<p>middle school curriculum. Integrate health and safety training into your general education and vocational programs. Students can use this knowledge throughout their careers, and it may be the only training they get before joining the workforce.</p> <p>Here are some resources for educators:</p> <p><a href="#">Your Construction Safety &amp; Health Program: Safe Students, Safe Workers</a>. A guide and set of program self-assessment tools to help you build safety and health management systems and education into your Career and Technical Education (CTE) Training Programs. Guide includes Action Steps and resource links for administrators, instructors, and industrial advisory committee members.</p> <p>The National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) <a href="#">Youth@Work: Talking Safety</a> curriculum can be used in the classroom or other group trainings. It has been customized for each state and Puerto Rico to address state-specific rules and regulations. It includes step-by-step instructions for presenting the material.</p> <p>The Minnesota Department of Health <a href="#">Work Safe Work Smart</a> curriculum teaches occupational health and safety issues to</p>	<p>キュラムに取り入れましょう。健康と安全に関する研修を、一般教育及び職業訓練プログラムに統合しましょう。生徒たちはこの知識をキャリアを通じて活用でき、労働力に加わる前に受ける唯一の研修となる可能性があります。</p> <p>教育関係者のための情報源（リソース）をご紹介します：</p> <p><a href="#">『建設安全衛生プログラム：安全な学生、安全な労働者』</a></p> <p>キャリア・技術教育（CTE）研修プログラムに安全衛生管理システム及び教育を組み込むためのガイド及び自己評価ツール一式。管理者並びに講師及び産業諮問委員会メンバー向けの行動手順とリソースリンクを掲載</p> <p>国立労働安全衛生研究所（NIOSH）の「Youth@Work: Talking Safety(若年者と労働)カリキュラムは、教室やその他の集団研修で使用できます。各州及びプエルトリコ向けにカスタマイズされ、州固有の規則や規制に対応しています。教材を提示するための段階的な手順が含まれています。</p> <p>ミネソタ州保健省の「Work Safe Work Smart」（作業安全スマートな作業カリキュラムは、若年労働者の負傷率低減を目的として、高校</p>
--	---

	<p>high school students with the goal of reducing injury rates of young workers.</p> <p>The <a href="#">Resources</a> section of this website contains additional workplace safety and health materials.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• The <a href="#">Resources</a> section of this website contains additional workplace safety and health materials.</li> </ul> 	<p>生に労働安全衛生問題を指導します。</p> <p>本ウェブサイトの「リソース」セクションには、追加の職場安全衛生資料が掲載されています。</p>
	<p><b>OSHA Is Here to Help!</b></p> <p>The Occupational Safety and Health Administration (OSHA) is the agency of the Department of Labor (DOL) that protects workers from dangers on the job that can cause injuries or illnesses. OSHA is here to help you. Call us on our toll-free number: 1-800-321-OSHA (6742) or TTY 1-877-889-5627 to get answers to your questions, or to ask OSHA to inspect your workplace if you think there is a serious hazard. You can also <a href="#">submit a question online</a>. To</p>	<p><b>OSHA は皆様をサポートします！</b></p> <p>職業安全衛生局（OSHA）は、労働省（DOL）の機関であり、労働者が職場で負傷や疾病を引き起こす危険から保護します。OSHA は皆様をサポートします。無料電話番号：1-800-321-OSHA (6742) 又は TTY 1-877-889-5627 までお電話ください。ご質問への回答や、重大な危険があると考える職場の検査依頼を受け付けています。オンラインでの質問提出も可能です。職場の危険に関する秘密厳守の苦情を申し立てる場合は、「苦情申立方法」 ページの手順に従ってください。</p>

	file a confidential complaint about workplace hazards, visit our <a href="#">How to File a Complaint</a> page for instructions.	
<b>Real Stories</b> (実例)	<b>Real Stories</b>  Real Stories describe actual cases in which young workers were injured or killed at work. These cases are taken from the <a href="#">National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) Fatality Assessment and Control Evaluation (FACE) website</a> and OSHA inspection data.	<b>実例</b>  実例とは、若年労働者が職場で負傷又は死亡した実際の事例を記述したものです。これらの事例は、国立労働安全衛生研究所（NIOSH）の死亡事故評価及び対策評価（FACE）ウェブサイト及び OSHA の検査データから引用されています。
	<b>What Injured Teens Have to Say</b>  From Massachusetts Department of Health interviews with teen workers My injury could have been prevented if... "a supervisor was present", "the broken machine part was replaced", "the floor was dry", "I was helped by someone else".  <b>Don't Let It Happen to You</b>	<b>負傷したティーンエイジャーの声</b>  マサチューセッツ州保健局によるティーンエイジャー労働者へのインタビューより 私の負傷は、もし...であれば防げたはず 「監督者が同席していたら」「故障した機械部品が交換されていたら」 「床が乾いていたら」「誰かに助けられていたら」  あなたにも起こらないように

	<p>Employers are responsible for the safety of their workplaces and must provide workers with necessary training and personal protective equipment. Employers must have a plan for workplace emergencies and have medical services or first aid supplies available.</p>	<p>使用者は職場の安全に責任を負い、労働者に必要な訓練と個人用保護具を提供しなければなりません。使用者は職場の緊急事態への計画を策定し、医療サービスまたは応急手当用品を用意しておく必要があります。</p>
	<p><b>Suffocated in a Grain Silo</b></p> <p>Two young workers (ages 14 and 19) were killed at a grain storage facility in the Midwest when they were sent into a grain bin to “walk down the corn.” The grain bin was being emptied, and the workers’ task was to break up clumps by walking on them to make the corn flow out of the bin. The workers were not provided safety harnesses, and the machinery used for evacuating the grain was running. The suction created by the flowing grain pulled them in like quicksand and suffocated them. Workers should never be inside a grain bin when it is being emptied out, because a sinkhole can form and pull down the worker in a matter of seconds. OSHA standards prohibit this dangerous practice. This company ignored that rule as well as other protective safety requirements. In addition, child labor laws made it illegal for this company to employ</p>	<p><b>穀物サイロで窒息死</b></p> <p>中西部にある穀物貯蔵施設で、14歳と19歳の若い作業員2名が死亡した。彼等は穀物サイロ内に送り込まれ、「トウモロコシを踏み固める」作業に従事していた。穀物サイロは排出作業中であり、作業員は塊を踏み固めて崩し、トウモロコシをサイロから流れ出させる任務を負っていた。作業員には安全ハーネス（命綱）が支給されておらず、穀物排出用の機械は稼働中だった。流れ出る穀物が生み出す吸引力が彼等を流砂のように吸い込み、窒息死させた。穀物サイロの排出作業中は、作業員が内部に入ってはならない。陥没穴が形成され、瞬時に作業員を引きずり込む危険があるためだ。</p> <p>OSHA 基準はこの危険な作業を禁止している。同社はこの規則を含む安全保護要件を無視した。</p> <p>さらに児童労働法により、14歳の少年を穀物サイロ作業に従事させる</p>

	<p>a 14-year-old to work in a grain silo.</p> <p>To prevent this, employers must:</p> <p>Turn off, disconnect and lock out all powered equipment associated with the bin that poses a danger to employees inside the grain structure, including augers used to help move the grain, so that the grain is not being emptied or moving out or into the bin <a href="#">[1910.272(g)(1)(ii)]</a>. Standing on moving grain is deadly; the grain can act like quicksand and bury a worker very quickly. Moving grain out of a bin creates a suction that can swiftly pull and bury any workers who are in the bin.</p> <p>Prohibit walking down grain and similar practices where an employee walks on grain to make it flow <a href="#">[1910.272(g)(1)(iv)]</a>.</p> <p>Provide each worker entering a bin from a level at or above stored grain, or when a worker will walk or stand on stored grain, with a body harness. The body harness should have a lifeline that is positioned and is of sufficient length to prevent a worker from sinking further than waist-deep in grain <a href="#">[1910.272(g)(2)]</a>.</p> <p>Provide an observer stationed outside the bin or silo being entered by an employee and maintain communication between the observer and the employee who enters. Ensure the observer is equipped to provide assistance <a href="#">[1910.272(g)(3)]</a>.</p>	<p>ことは違法であった。</p> <p>これを防止するため、使用者は以下を実施しなければならない：</p> <p>穀物構造物内の被雇用者に危険を及ぼすサイロに関連する全ての動力機器（穀物の移動を補助するオーガーを含む。）の電源を切り、接続を解除し、ロックアウトすること。これにより、穀物が排出されたり、サイロから出入りしたりしないようにする<a href="#">[1910.272(g)(1)(ii)]</a>。流動する穀物の上で作業することは致命的である。穀物は流砂のように作用し、作業員を瞬時に埋没させる恐れがある。サイロから穀物を排出する際には吸引力が発生し、サイロ内にいる作業員を素早く引きずり込み埋没させる可能性がある。</p> <p>穀物を流動させるために作業員が穀物の上を歩く行為（穀物の上を歩く作業等）を禁止すること <a href="#">[1910.272(g)(1)(iv)]</a>。</p> <p>貯蔵穀物と同レベル以上から貯蔵容器に入る作業員、又は貯蔵穀物の上を歩行・立位する作業員には、身体用ハーネスを支給すること。身体用ハーネスには、作業員が穀物に腰より深く沈み込むのを防止できる位置に設置され、十分な長さのライフラインを備えること <a href="#">[1910.272(g)(2)]</a>。</p> <p>被雇用者が進入するサイロ又は貯蔵庫の外側に監視員を配置し、監視員と進入する被雇用者との間の通信を維持すること。監視員が救助を</p>
--	---	--

	<p>Prohibit workers from entry into bins or silos underneath a bridging condition, or where a build-up of grain products on the sides could fall and bury them <a href="#">[1910.272(g)(6)]</a>.</p> <p>Provide training about engulfment and mechanical hazards to employees assigned special tasks such as bin entry <a href="#">[1910.272(e)(2)]</a>.</p> <p>Test the air within a bin or silo prior to entry for the presence of combustible and toxic gases, and to determine if there is sufficient oxygen <a href="#">[1910.272(g)(1)(iii)]</a>.</p> <p>Provide and continue ventilation until any unsafe atmospheric conditions are eliminated. If toxicity or oxygen deficiency cannot be eliminated, workers must wear appropriate respirators <a href="#">[1910.272(g)(1)(iii) A and B]</a>.</p> <p>Ensure a permit is issued for each instance a worker enters a bin or silo, certifying that the precautions listed above have been implemented <a href="#">[1910.272(g)(1)(i)]</a>.</p> <p>For more information, see:</p> <p><a href="#">OSHA Regional News Release, November 23, 2009</a></p> <p><a href="#">29 CFR 1910.272, OSHA's Grain Handling Standard</a></p> <p><a href="#">OSHA's Grain Handling Facilities Safety and Health Topics Page</a></p> <p><a href="#">OSHA's Hazard Alert: Dangers of Engulfment and Suffocation in</a></p>	<p>提供できる装備を備えていることを確保すること <a href="#">[1910.272(g)(3)]</a>。</p> <p>ブリッジング状態にある、又は側面に堆積した穀物製品が落下して作業員を埋没させる恐れのあるサイロや貯蔵庫への作業員の立ち入りを禁止すること <a href="#">[1910.272(g)(6)]</a>。</p> <p>サイロ進入等の特殊作業を割り当てられた被雇用者に対し、埋没事故及び機械的危険に関する訓練を提供すること <a href="#">[1910.272(e)(2)]</a>。</p> <p>サイロ又は貯蔵庫への進入前に、可燃性ガス及び有毒ガスの存在を確認し、十分な酸素が存在するかどうかを判定するため、内部の空気を検査すること <a href="#">[1910.272(g)(1)(iii)]</a>。</p> <p>安全でない大気状態が解消されるまで換気を提供し継続すること。毒性又は酸素欠乏が解消できない場合、作業員は適切な呼吸用保護具を着用しなければならない <a href="#">[1910.272(g)(1)(iii) A 及び B]</a>。</p> <p>作業員が貯蔵容器又はサイロに入るたびに、上記の予防措置が実施されたことを証明する許可証を発行すること <a href="#">[1910.272(g)(1)(i)]</a>。</p> <p>詳細については以下を参照：</p> <p><a href="#">OSHA 地域ニュースリリース (2009年11月23日付)</a></p>
--	--	--

	<p><a href="#">Grain Bins</a></p>	<p><a href="#">29 CFR 1910.272 (OSHA 穀物取扱基準)</a></p> <p><a href="#">OSHA 穀物取扱施設安全衛生トピックページ</a></p> <p><a href="#">OSHA 危険警報：穀物貯蔵庫における埋没・窒息の危険性</a></p>
	<p><a href="#">Caught in a Mortar Mixer</a></p> <p>An 18-year-old worker died after becoming entangled in a portable mortar mixer at a residential construction site. The victim was cleaning the mixer at the end of his shift to prepare it for the following day. A painter working near the victim heard yells for help and saw the victim’s arm stuck in the machine and his body being pulled into the rotating mixer paddles. He ran to the mixer and attempted to turn it off, but could not disengage the gears, so he yelled for help. A co-worker heard the commotion, ran to the machine and shut it off. Emergency medical services was called and responded within minutes. Rescue workers dismantled the drive mechanism to reverse the mixing paddles and extricate the worker. He was pronounced dead at the scene.</p> <p>Workers must be trained in safety procedures. A safety procedure that applies to this case is “lockout/tagout,” which requires turning off and disconnecting machinery or equipment from its energy source(s) before performing service or maintenance. In this</p>	<p><b>モルタルミキサーに巻き込まれる。</b></p> <p>住宅建設現場で、18歳の作業員が携帯用モルタルミキサーに巻き込まれ死亡した。被害者は勤務終了後、翌日の作業に備えてミキサーの清掃を行っていた。近くで作業していた塗装工が助けを求める叫び声を聞き、被害者の腕が機械に挟まれ、回転するミキサーの羽根に体が引き込まれるのを目撃した。</p> <p>彼はミキサーに駆け寄り電源を切ろうとしたが、ギアを解除できず、助けを求めて叫んだ。騒ぎを聞いた同僚が機械に駆け寄り電源を切った。</p> <p>救急隊が数分以内に到着。救助隊は駆動機構を分解し、攪拌羽根を逆回転させて作業員を救出しようとしたが、現場で死亡が確認された。</p> <p>作業員は安全手順について訓練を受けなければならない。本事例に適</p>

	<p>example, the worker died when he was pulled into a mortar mixer that was actively operating and not locked out.</p> <p>To prevent this, employers must:</p> <p>Ensure that equipment is turned off and disconnected from its energy sources before cleaning or maintenance.</p> <p>Train employees in the recognition and control of hazards.</p> <p>Ensure machine and equipment guards remain in place.</p> <p>Establish lockout/tagout procedures to guard workers from the unexpected startup of machinery and equipment or the release of hazardous energy during service or maintenance activities.</p> <p>Ensure that all warning labels on the equipment are clearly visible and equipment is properly maintained.</p> <p>Assign safety responsibilities to a competent person at each job site with the authority to enforce safety requirements and take prompt measures to correct unsafe situations.</p> <p>For more information, see:</p> <p><a href="#"><u>Control of Hazardous Energy (Lockout/Tagout)</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1926.702, OSHA's Safety and Health Regulations for Construction, Concrete and Masonry</u></a> (includes 1926.702(j),</p>	<p>用される安全手順は「ロックアウト／タグアウト」であり、これはサービスや保守作業を行う前に、機械や設備の電源を遮断し、エネルギー源から切り離すことを要求する。この事例では、作業員が稼働中のモルタルミキサーに引き込まれ、ロックアウトされていなかったため死亡した。</p> <p>これを防止するため、使用者は以下の措置を講じなければならない：  清掃や保守作業前に、設備の電源を遮断しエネルギー源から切り離すこと。  被雇用者に対し、危険の認識と管理に関する訓練を実施すること。  機械や設備のガードが確実に設置された状態を維持すること。  作業中や保守活動中の機械や設備の予期せぬ始動や危険なエネルギーの放出から労働者を保護するため、ロックアウト／タグアウト手順を確立すること。  設備上の警告ラベルがすべて明確に視認可能であり、設備が適切に維持管理されていることを確認すること。  各作業現場において、安全要件を執行し、安全でない状況を是正するための迅速な措置を講じる権限を持つ有資格者に安全責任を割り当てること。</p>
--	--	---

	<p>Lockout/Tagout Procedures)</p> <p><a href="#">OSHA's Construction eTool</a></p> <p><a href="#">Concrete and Concrete Products—Manufacturing and Construction Safety and Health Topics Page</a></p>	<p>詳細については以下を参照：</p> <p><a href="#">危険エネルギーの管理（ロックアウト／タグアウト）</a></p> <p><a href="#">29 CFR 1926.702、OSHA 建設・コンクリート・石工作業安全衛生規則（1926.702(j) ロックアウト／タグアウト手順を含む。）</a></p> <p><a href="#">OSHA 建設業 e ツール</a></p> <p><a href="#">コンクリート及びコンクリート製品—製造・建設における安全衛生トピックページ</a></p>
	<p><b><u>Pool Manager Electrocuted</u></b></p> <p>A 17-year-old assistant pool manager was electrocuted when she contacted an ungrounded electric motor. She was performing her work duty of maintaining the pH level of the swimming pool by adding soda ash to the water. Standing barefoot on the wet concrete floor of the pump room, she filled the plastic drum with water, plugged in the mixing motor and placed the motor switch in the on position. In the process of adding soda ash to the drum, she accidentally contacted the energized mixing motor with her left hand and created a path to ground for the electrical current. She was electrocuted and died.</p> <p>To prevent this, employers must:</p>	<p><b><u>プール管理者が感電死</u></b></p> <p>17 歳のアシスタントプール管理者が、接地されていない電動モーターに触れた際に感電死した。彼女はプール水の pH 値を維持するため、ソーダ灰を水に添加する業務中だった。ポンプ室の濡れたコンクリート床に裸足で立ち、プラスチックドラムに水を満たした後、攪拌モーターのプラグを差し込み、モータースイッチをオンにした。</p> <p>ドラムにソーダ灰を追加する過程で、誤って左手で通電中の攪拌モーターに触れ、電流が流れる接地経路を作ってしまった。</p> <p>彼女は、感電して死亡した。</p> <p>これを防ぐため、使用者は次のことを行わなければならない：</p> <p>すべての機器を安全な作動状態に維持すること。使用者は、故障して</p>

	<p>Maintain all equipment in safe operating condition. Employers should routinely inspect and repair or replace equipment that is faulty, damaged or presents a safety hazard. In this case, the mixing motor was old and in poor condition with a faulty electrical ground. An electrical supply cord with the grounding pin intact may have prevented this fatality.</p> <p>Maintain electrical circuits with ground-fault circuit interrupters (GFCIs). In this case, the GFCI was not properly wired and functioning. A properly wired and functioning GFCI could have sensed the faulty electrical ground condition and de-energized the circuit, thereby preventing the fatality.</p> <p>Keep the workplace free of safety hazards. Electrical equipment should not be installed in rooms that do not have adequate drainage to prevent water accumulation during normal operation or filter maintenance. In this case, the employer should have ensured adequate drainage of the pump room to avoid water accumulating on the floor and contributing to the electrocution hazard. Also, all employees entering the pump room should wear insulated boots/shoes. Had the floor been dry and had the victim been wearing insulated boots or shoes, this fatality might have been prevented.</p> <p>For more information, see:</p>	<p>いる、損傷している、又は安全上の危険をもたらす機器を定期的に点検し、修理又は交換すべきである。この事例では、ミキシングモーターは古く状態が悪く、電氣的な接地不良があった。接地ピンが正常な電源コードがあれば、この死亡事故は防げた可能性がある。</p> <p>漏電遮断器（GFCI）を備えた電気回路を維持すること。本件では、GFCI が適切に配線し、及び作動していなかった。適切に配線し、及び作動する GFCI であれば、不良な電気接地状態を検知し回路の通電を遮断できたはずであり、それにより死亡事故は防げた可能性がある。</p> <p>職場に安全上の危険がないようにしてください。電気設備は、通常の運転時やフィルターメンテナンス時に水が溜まらないよう、十分な排水設備が整っていない部屋には設置すべきではありません。この場合、使用者はポンプ室の床に水が溜まって感電の危険を招くのを防ぐため、十分な排水設備を確保すべきでした。また、ポンプ室に入る被雇用者は全員、絶縁ブーツ/靴を着用すべきです。</p> <p>床が乾いており、被害者が絶縁ブーツ又は靴を履いていれば、この死亡事故は防げた可能性があります。</p> <p>詳細については、以下を参照のこと：</p>
--	--	---

	<p><a href="#">29 CFR 1910.303, Electrical, General</a></p> <p><a href="#">29 CFR 1910.306, Electrical, Specific Purpose Equipment and Installations</a></p> <p><a href="#">29 CFR 1910.307, Electrical, Hazardous (Classified) Locations</a></p> <p><a href="#">OSHA's Electrical Safety and Health Topics Page</a></p>	<p><a href="#">29 CFR 1910.303、電気、一般</a></p> <p><a href="#">29 CFR 1910.306、電気、特定用途の設備及び設置</a></p> <p><a href="#">29 CFR 1910.307、電気、危険（分類）区域</a></p> <p><a href="#">OSHA の電気安全と健康トピックページ</a></p>
	<p><a href="#">Fall Leads to Skull Fracture</a></p> <p>A 20-year-old carpenter was working for a construction company that was building an apartment building. While he was trying to install temporary supports for the roof trusses, he fell through the second story stairway opening and landed on the first floor concrete walkway. He suffered a skull fracture with serious brain injuries. Falls are the most common cause of injury and death for construction workers.</p> <p>To prevent this, employers must:</p> <p>Provide fall protection in one of three ways for workers exposed to vertical drops of 6 feet or more:</p> <p>Place guardrails around the hazard area.</p> <p>Deploy safety nets.</p>	<p><a href="#">転落による頭蓋骨骨折</a></p> <p>20 歳の大工がアパート建設中の建設会社で作業中、屋根トラスの仮設支柱を設置しようとした際、2 階の階段開口部から転落し、1 階のコンクリート通路に落下して頭蓋骨骨折と重篤な脳損傷を負った。</p> <p>建設作業員にとって転落は負傷及び死亡の最も一般的な原因である。</p> <p>これを防止するため、使用者は以下の対策を講じなければならない：</p> <p>垂直落下高 6 フィート（約 1.8m）以上の危険にさらされる作業員に対し、以下のいずれかの方法で墜落防止措置を講じること：</p> <p>危険区域にガードレールを設置する。</p> <p>安全ネットを設置する。</p> <p>作業員一人ひとりに個人用墜落防止システムを提供する。</p>

	<p>Provide personal fall protection systems for each worker. This includes an anchor, full body harness and lifeline.</p> <p>For more information, see:</p> <p><a href="#">29 CFR 1926 Subpart M - Fall Protection</a></p> <p><a href="#">Fall Protection</a></p> <p><a href="#">OSHA's Fall Prevention Campaign</a></p> <p><a href="#">Fall Protection in Residential Construction</a></p> <p><a href="#">Guidance Document: Fall Protection in Residential Construction</a></p>	<p>詳細については、以下を参照してください：</p> <p><a href="#">29 CFR 1926 サブパート M - 墜落防止</a></p> <p><a href="#">墜落防止</a></p> <p><a href="#">OSHA の墜落防止キャンペーン</a></p> <p><a href="#">住宅建設における墜落防止</a></p> <p><a href="#">ガイダンス文書：住宅建設における墜落防止</a></p>
	<p><a href="#">Lost a Finger in a Printing Press</a></p> <p>A 20-year-old worker lost his right middle finger while cleaning a printing press near a rotating gear. The machine was in operation, and his hand contacted and was caught by the rotating press. Two-thirds of his finger was cut off.</p> <p>Each year, many workers lose fingers, hands, feet and other body parts, mostly through compression, crushing, or by getting them caught between or struck by objects. Amputations occur most often when workers operate unguarded or inadequately safeguarded machines or equipment.</p>	<p><a href="#">印刷機で指を失う</a></p> <p>20歳の作業員が、回転する歯車の近くで印刷機を清掃中に右手中指を失った。機械は稼働中で、彼の手が回転する印刷機に接触し巻き込まれた。指の3分の2が切断された。</p> <p>毎年、多くの労働者が指や手、足等の身体の一部を失っている。その大半は、圧迫や押しつぶし又は物体の間に挟まれたり、打撃を受けたりすることが原因である。切断事故は、保護装置のない、又は不十分な安全対策の機械や設備を操作する際に最も頻繁に発生する。</p>

	<p>To prevent this, employers must:</p> <p>Establish a lockout/tagout program to ensure that equipment is shut off, de-energized and locked off during cleaning and maintenance. This will complement machine safeguarding methods to protect workers during potentially hazardous servicing and maintenance.</p> <p>Install guards on all mechanical hazard points that are accessible during normal operation, such as accessible in-going nip points between rollers and power-transmission apparatus (chains and sprockets).</p> <p>Use properly designed, applied, and maintained safeguarding devices (such as presence-sensing devices and mats) to keep body parts out of machine danger areas.</p> <p>Train employees in the following:</p> <p>All hazards in the work area, including machine-specific hazards.</p> <p>Machine operating procedures, lockout/tagout procedures and safe work practices.</p> <p>The purpose and proper use of machine safeguards.</p> <p>All procedures for responding to safeguarding problems, such as immediately reporting unsafe conditions (such as missing or</p>	<p>これを防止するため、使用者は次の措置を講じなければならない：</p> <p>清掃及び保守作業中に設備が停止され、通電が遮断され、ロックアウトされることを保証するロックアウト／タグアウトプログラムを確立すること。これにより、潜在的に危険な保守・点検作業中の労働者を保護する機械防護方法が補完される。</p> <p>通常の運転中にアクセス可能な全ての機械的危険箇所（ローラー間のアクセス可能なニップポイントや動力周知装置（チェーンやスプロケット）等）にガードを設置すること。</p> <p>身体の一部が機械の危険領域に入らないよう、適切に設計、設置及び維持された安全装置（存在検知装置やマット等）を使用すること。</p> <p>被雇用者に対し、以下の事項について訓練を実施すること：</p> <p>作業区域内のあらゆる危険要因（機械固有の危険を含む。）。</p> <p>機械操作手順、ロックアウト／タグアウト手順及び安全作業慣行。</p> <p>機械安全装置の目的及び適切な使用方法。</p> <p>安全装置の問題へのすべての対応手順（例：ガードの欠落又は損傷や安全操作慣行違反等）の危険な状態を直ちに監督者に報告すること。）。</p>
--	---	---

	<p>damaged guards and violations of safe operating practices) to supervisors.</p> <p>For more information, see:</p> <p><a href="#"><u>OSHA's Safeguarding Equipment and Protecting Employees from Amputations</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1910.147, Control of Hazardous Energy (Lockout/Tagout)</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1910.212, General Requirements for All Machines</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1910.217, Mechanical Power Presses</u></a></p>	<p>詳細については、以下を参照してください：</p> <p><a href="#"><u>OSHA の「切断事故防止のための設備の安全対策と被雇用者の保護」</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1910.147、危険エネルギーの管理（ロックアウト／タグアウト）</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1910.212、すべての機械に対する一般要件</u></a></p> <p><a href="#"><u>29 CFR 1910.217、機械式パワープレス</u></a></p>
--	--	---